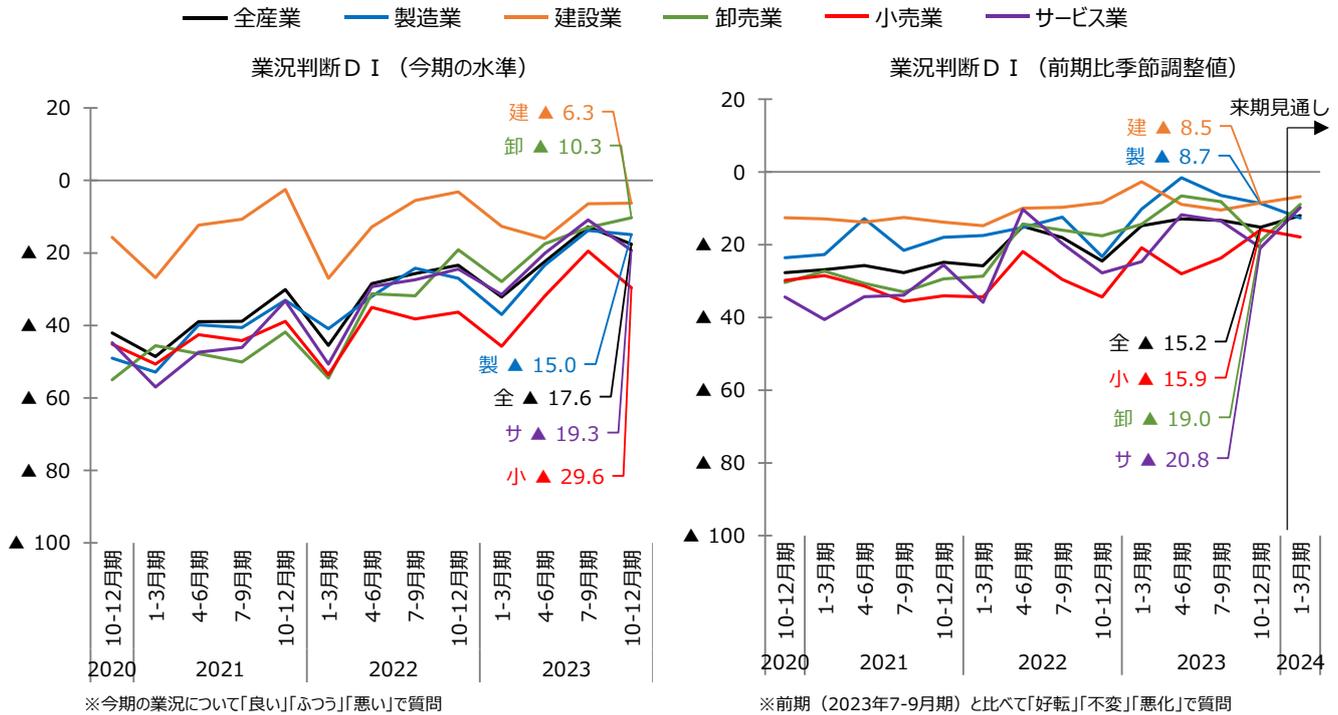


# 第174回 中小企業景況調査（2023年10-12月期） 北海道



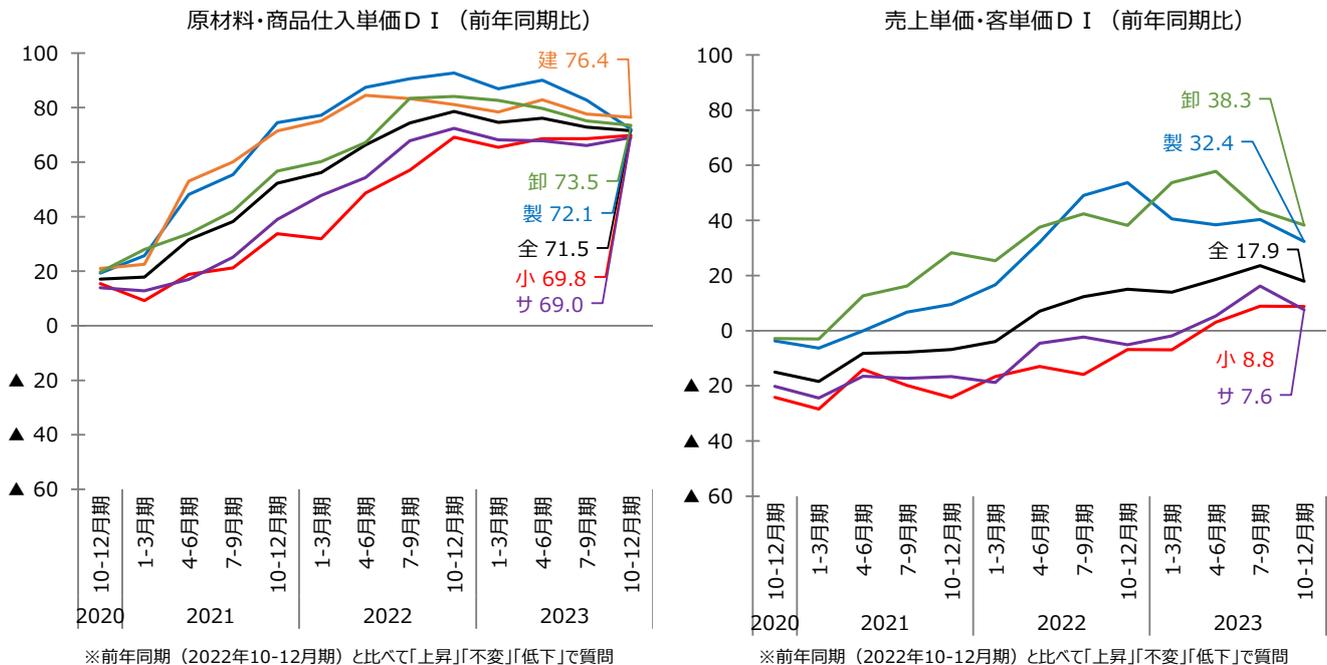
## 1. 業況感

北海道地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2023年7-9月期）より4.8ポイント減の▲17.6と3期ぶりに低下した。産業別にみると、卸売業、建設業で上昇し、小売業、サービス業、製造業で低下した。



## 2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より1.3ポイント減の71.5と2期連続して低下した。産業別にみると、サービス業、小売業で上昇し、製造業、卸売業、建設業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より5.7ポイント減の17.9と3期ぶりに低下した。産業別にみると、4産業すべてで低下した。



<調査概要> 調査時点は2023年11月15日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,833 有効回答企業数：17,952 有効回答率：95.3% うち、北海道：742企業

※本資料の集計対象の都道府県は、北海道です。

# 第174回 中小企業景況調査（2023年10-12月期） 北海道

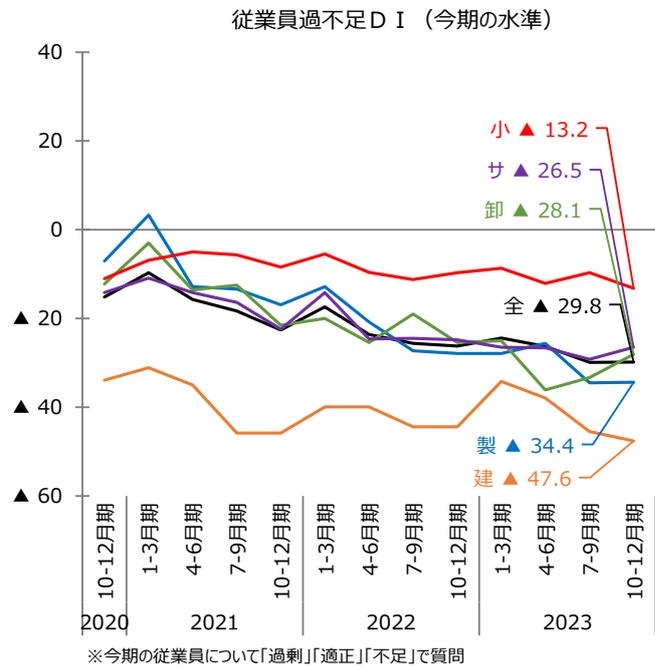
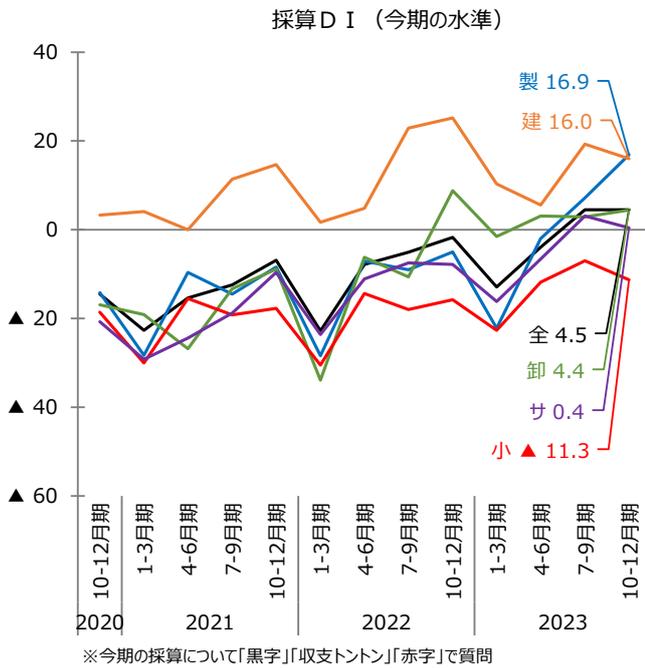


## 3. 採算

採算DIは、全産業で前期より横ばいの4.5となった。産業別にみると、製造業、卸売業で上昇し、小売業、建設業、サービス業で低下した。

## 4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より0.1ポイント増の▲29.8と3期ぶりに上昇した。産業別にみると、卸売業、サービス業、製造業で上昇、小売業、建設業で低下した。



## 4. 北海道の中小企業の声

業況判断の背景		業種	
現状	度重なる原材料の高騰に加え、光熱費や、燃料費等の負担額が激増している中、年次契約の受注は、売価を上げることができない。次年度の予算見積額の設定も、難しい。設備の老朽化への対策も、考えなければならない。	製造業	オフセット印刷業(紙に対するもの)
	官公庁の工事が減少傾向で、当社の売上に、大きく影響が出ている。人件費の引上げや、物価高騰で、経営環境が難しくなっている中、売上の維持、収益の確保が課題となっている。	建設業	木造建築工事業
	該当なし	卸売業	
	販売価格の値上げで、売上額は、上がっているよう見えるが、実際は、仕入額も上がっているため、利益増加には、至っていない。	小売業	新聞小売業
	仕事量はあるが、従業員不足に加え、高齢化している作業員の負担が大きく、労基法の超過勤務時間の制約がある中で、業績を上げることは、至難の業です。資金繰りも、さることながら、業況の好転は、非常に難しいとされます。	サービス業	自動車一般整備業
見通し	原材料高騰も、去年より、ゆるやかになり、価格転嫁がようやく追いついた。メイン材料の一部は、価格が落ちてきているものもあり、今後は、更に業況が良くなる見通し。	製造業	水産缶詰・瓶詰製造業
	今期は、気温が高かったため、空調関係（特にエアコン）の出荷が増えて、入荷が遅れ、来期は、納期の予定が立たなくなる見込みだ。また、2024年問題もあり、人手不足が更に進むので、景気の悪化が予測される。	建設業	一般管工事業
	該当なし	卸売業	
	猛暑の影響から、青果の価格高騰と、品不足の影響が大きい。物価高については、全般的に受け入れられている感触はあるものの、消費する物の優先順位を意識している傾向にあり、この先の消費動向が読みづらい。	小売業	各種食料品小売業
	物価高騰による、原価率の上昇で、利益が少なく感じる。客単価を上げたいが、思った効果がでない。メニューの見直しを検討している。	サービス業	食堂、レストラン(専門料理店を除く)

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

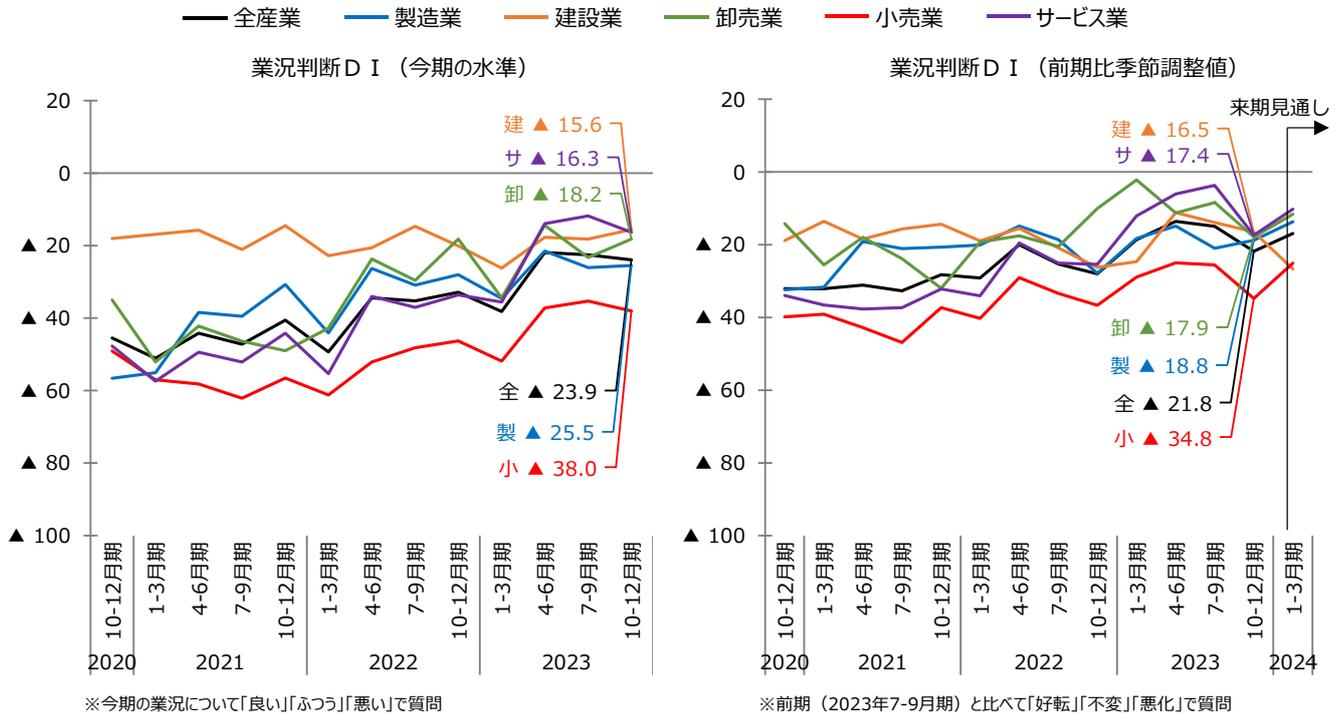
項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。

# 第174回 中小企業景況調査（2023年10-12月期） 東北



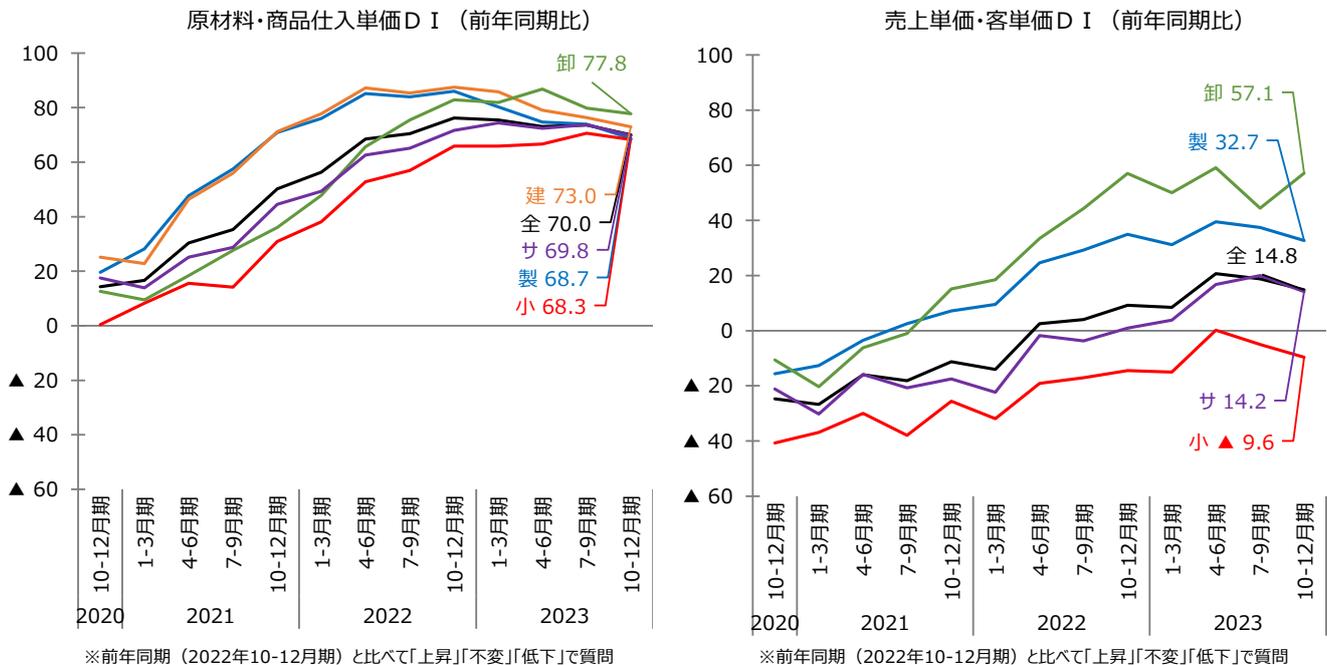
## 1. 業況感

東北地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2023年7-9月期）より1.4ポイント減の▲23.9と2期連続して低下した。産業別にみると、卸売業、建設業、製造業で上昇し、サービス業、小売業で低下した。



## 2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より3.6ポイント減の70.0と2期ぶりに低下した。産業別にみると、5産業すべてで低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より4.0ポイント減の14.8と2期連続して低下した。産業別にみると、卸売業で上昇し、サービス業、製造業、小売業で低下した。



<調査概要> 調査時点は2023年11月15日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,833 有効回答企業数：17,952 有効回答率：95.3% うち、東北：1,856企業

※本資料の集計対象の都道府県は、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県です。

# 第174回 中小企業景況調査（2023年10-12月期） 東北

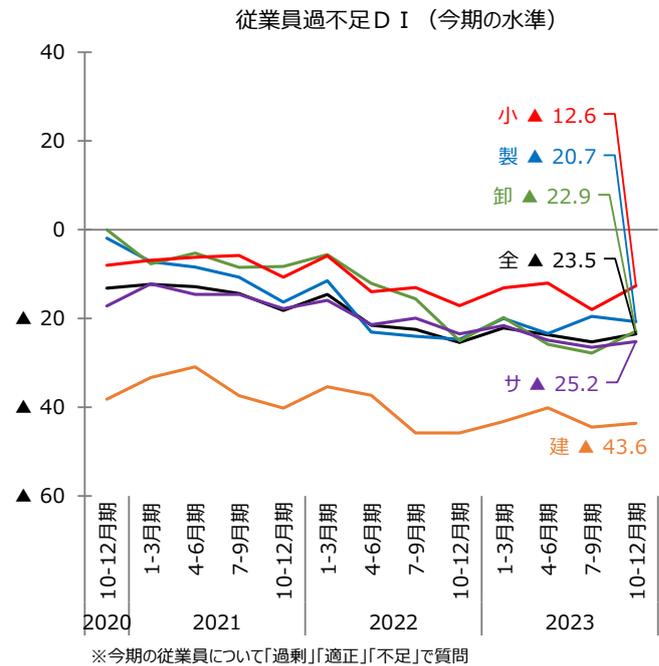
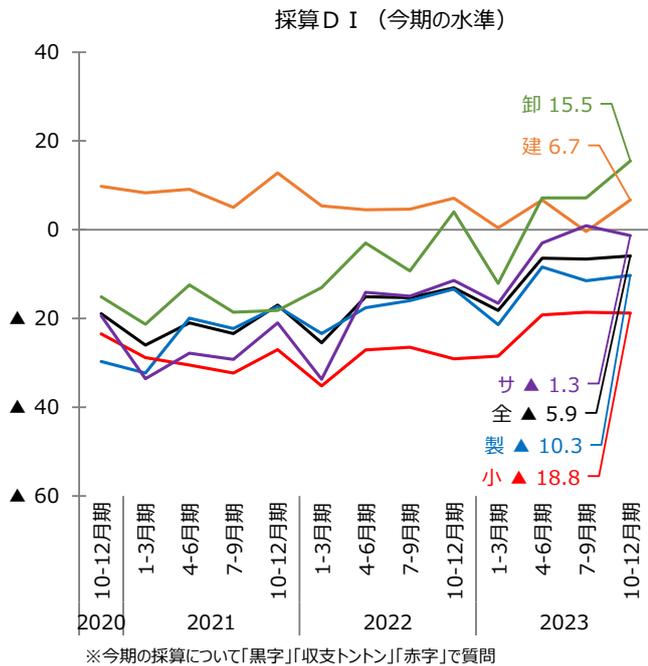


## 3. 採算

採算DIは、全産業で前期より0.7ポイント増の▲5.9と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、卸売業、建設業、製造業で上昇し、サービス業、小売業で低下した。

## 4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より1.8ポイント増の▲23.5と3期ぶりに上昇した。産業別にみると、小売業、卸売業、サービス業、建設業で上昇、製造業で低下した。



## 4. 東北の中小企業の声

	業況判断の背景	業種
現状	コロナによる停滞感が少なくなってきた、以前の状況に、少しずつ戻っているような感じを受けている。	製造業 木製家具製造業 (漆塗りを除く)
	受注はあるが、熟練技術者の確保が難しく、工期がスムーズに進まない。	建設業 一般土木建築工事業
	原油価格の高騰に伴う、仕入価格の上昇、及び燃料費、その他経費の急激な上昇があり、商品価格を、適正利益の確保まで引き上げることが、他社競合の状況等から、困難な状態。	卸売業 他に分類されないその他の卸売業
	売上は、若干上昇。しかし、仕入れ値が高騰しており、その他の経費も、増加傾向である。在庫が過剰気味であり、採算が低下している。	小売業 各種食料品小売業
	旅割キャンペーンが、6月で終わり、7月から、宿泊客が減少するかと心配していましたが、特に影響なく、安心していきます。ただし、食材等の値上げで、利益が減っています。施設の修繕費もかさみ、経営が大変です。	サービス業 旅館、ホテル
見通し	コロナの回復後、半導体関連が落ち込み、これを補填するため、他社からの引合いを受注している。半導体関連の業界から、来年は回復すると聞いているが、回復後の受注に対応できる生産体制が無く、悩んでいる。	製造業 金属工作機械用・金属加工機械用部品・附属品製造業
	人材不足。インボイスの影響で、下請けが消費税対象経費にならないパターンが懸念される。	建設業 一般土木建築工事業
	経費の増加に対し、需要が停滞し、収益性が低下している。外部要因の変化が激しく、非常に経営が難しい。取引先においても、廃業が増加しており、新規参入が無いため、厳しい局面が続くそうです。	卸売業 靴・履物卸売業
	コロナ禍で自粛されていた、イベント等での仕事が増え、売上増につながっている。しかし、仕入単価、固定費も上昇しており、従業員も増やしたいが、借入れも多くあり、バランスが今後の課題だと思います。	小売業 苗・種子小売業
	宿泊需要も安定的なものになり、稼働がしっかりと上がっている。インバウンドも増えているので、国内外での宿泊旅行者が増加している。人手不足は、引き続きの悩みである。今後は、人手不足が前提でのサービス提供になる。	サービス業 旅館、ホテル

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

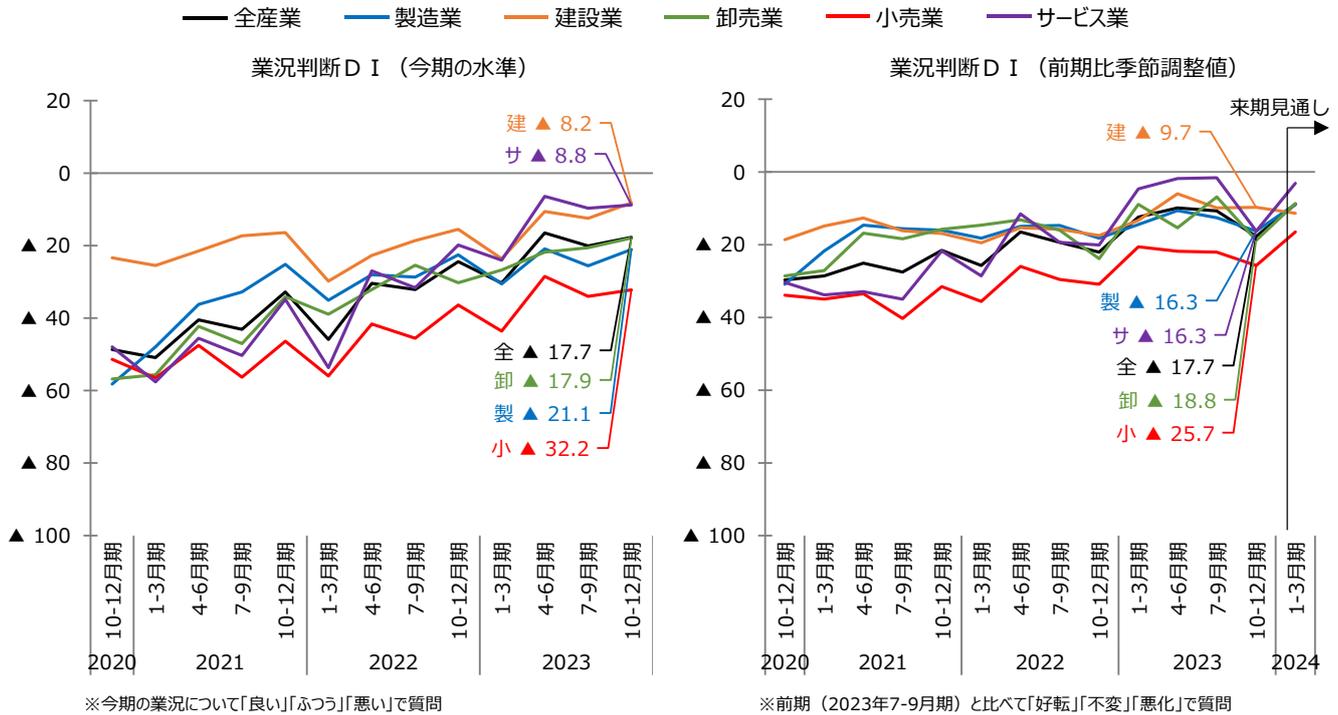
項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。

# 第174回 中小企業景況調査（2023年10-12月期） 関東



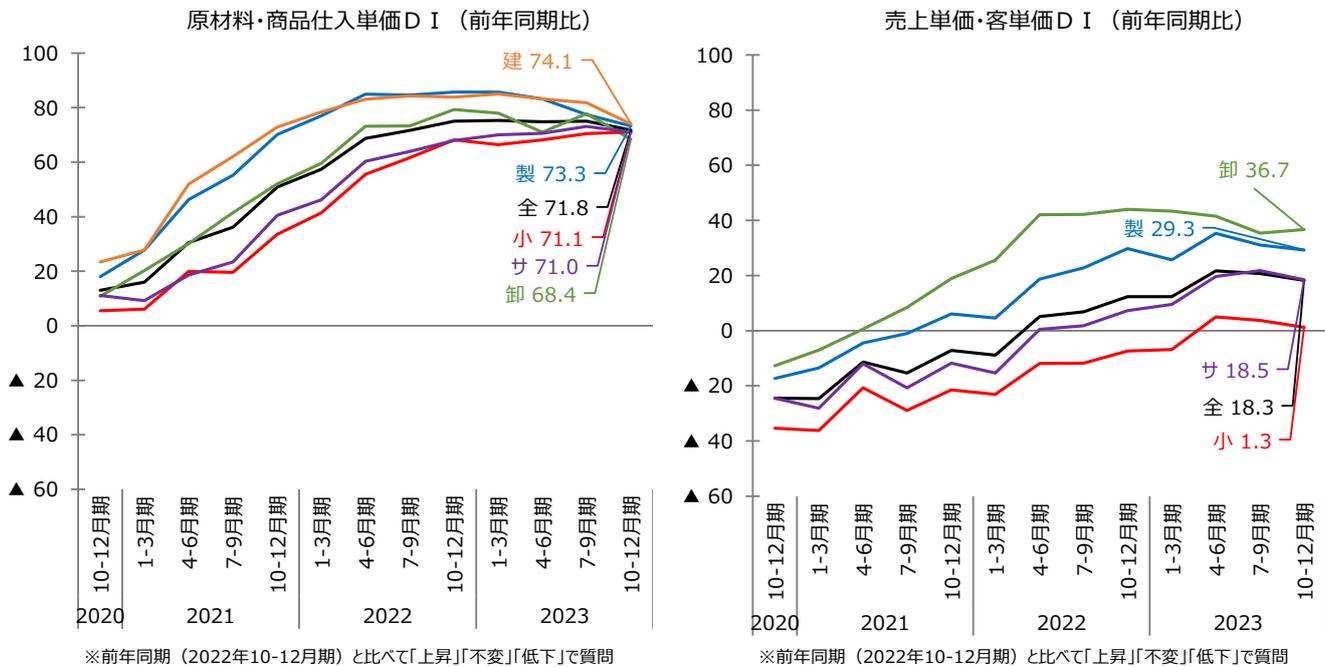
## 1. 業況感

関東地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2023年7-9月期）より2.4ポイント増の▲17.7と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、5産業すべてで上昇した。



## 2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より3.2ポイント減の71.8と2期ぶりに低下した。産業別にみると、小売業で上昇し、卸売業、建設業、製造業、サービス業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より2.4ポイント減の18.3と2期連続して低下した。産業別にみると、卸売業で上昇し、サービス業、小売業、製造業で低下した。



<調査概要> 調査時点は2023年11月15日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,833 有効回答企業数：17,952 有効回答率：95.3% うち、関東：4,857企業

※本資料の集計対象の都道府県は、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県、長野県、静岡県です。

# 第174回 中小企業景況調査（2023年10-12月期） 関東

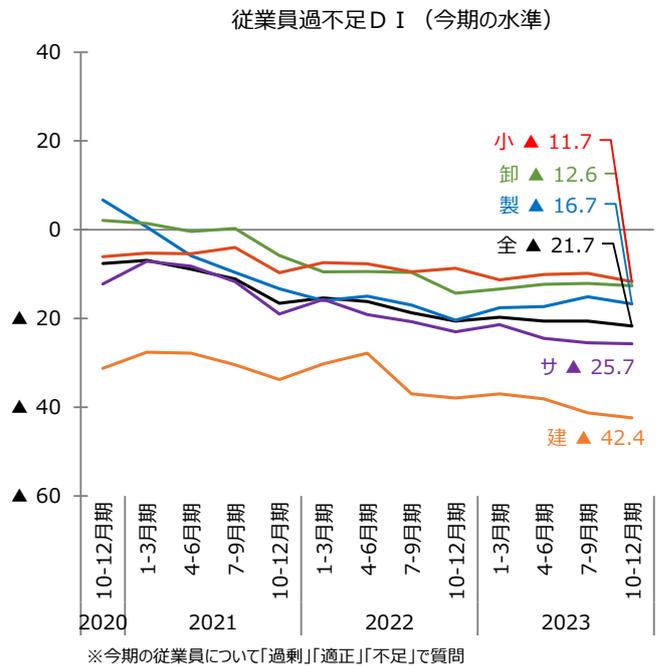
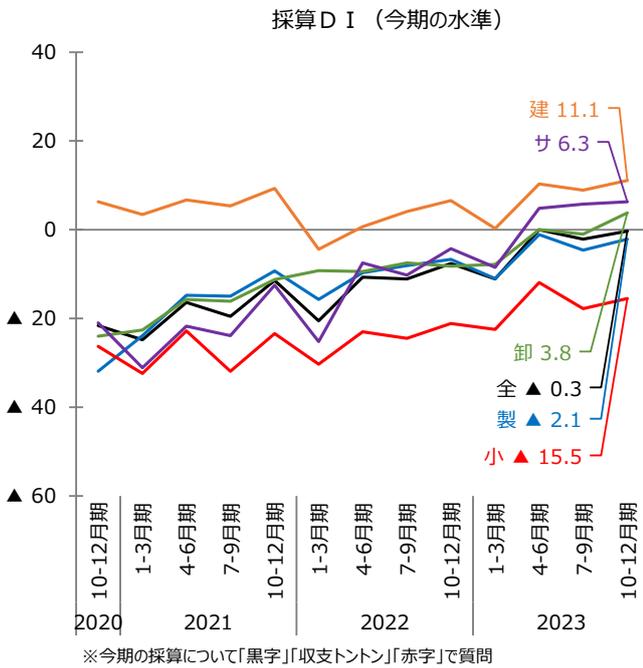


## 3. 採算

採算DIは、全産業で前期より1.8ポイント増の▲0.3と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、5産業すべてで上昇した。

## 4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より1.1ポイント減の▲21.7と2期ぶりに低下した。産業別にみると、5産業すべてで低下した。



## 4. 関東の中小企業の声

	業況判断の背景	業種
現状	半導体不足の影響は、解消してきていて、受注増加傾向にあるが、人材不足による、生産人員の確保が厳しく、課題となっている。現状の受注計画通りに進捗することを、注視していきたい。	製造業 自動車部分品・附属品製造業
	前年同期と比較して、利益率は低下傾向にある。主な要因としては、人件費増加、材料仕入単価の上昇等によるものであり、受注価格への転嫁と、コスト削減の両方からの取組が必要である。	建設業 一般土木建築工事業
	引合いは、昨年に比べ、活発になってきている。物価高騰により、購買力が低下、新築需要も横ばいではあるが、リフォーム関連の動きが良い。	卸売業 家具・建具卸売業
	物価高の影響で、土産物も単価が上がっている。消費者にとって、生活必需品以外の物に対しては、購買を見合わせていると思われる。価格転嫁で、商品単価が上がっている土産品等は、以前のように買わなくなっていると感じます。	小売業 菓子小売業（製造小売）
	コロナが収束し、人の移動が増え、タクシー利用も増加、運賃値上げが実施され、乗り控えも感じられる。車両はあるものの、人材が不足、早急に補充し、ニーズに応えていきたい。	サービス業 一般乗用旅客自動車運送業
見通し	中国の情勢が悪いため、中国向けの商品がほとんど動いていない状況です。来年あたりから、回復すれば良いのですが、お客様の話では、来年いっぱい回復しないと。売上が落ちている、大きな要因です。	製造業 他に分類されないプラスチック製品製造業
	引合いはあるが、相見積り等が増加し、競争が激しい。元請業者の工事業務が、働き方改革等から、下請業者に求められ、同じ工期で、増加した施工工事完了を求められ、今後、2024年問題で、下請業者へのしわ寄せが懸念される。	建設業 板金工事業
	現在は、活発だが、年明けからの仕事が無い、という業者が出はじめた。ここ数年は無かったので、少し後退期に入るのかもしれないと感じている。	卸売業 木材・竹材卸売業
	原材料の高騰が続き、販売価格を容易に上げることもできず、利益が薄いところに、消費者も家計の負担になるので、必要な物しか買わないため、売上増加も見込めないと思われます。	小売業 菓子小売業（製造小売）
	コロナ禍が収束したことで、来客数が増えており、月によっては、コロナ前より、売上が伸びている。懸念として、為替の影響で、輸入食材等が高騰しており、収まる気配が、まだ見通せない。	サービス業 その他の専門料理店

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

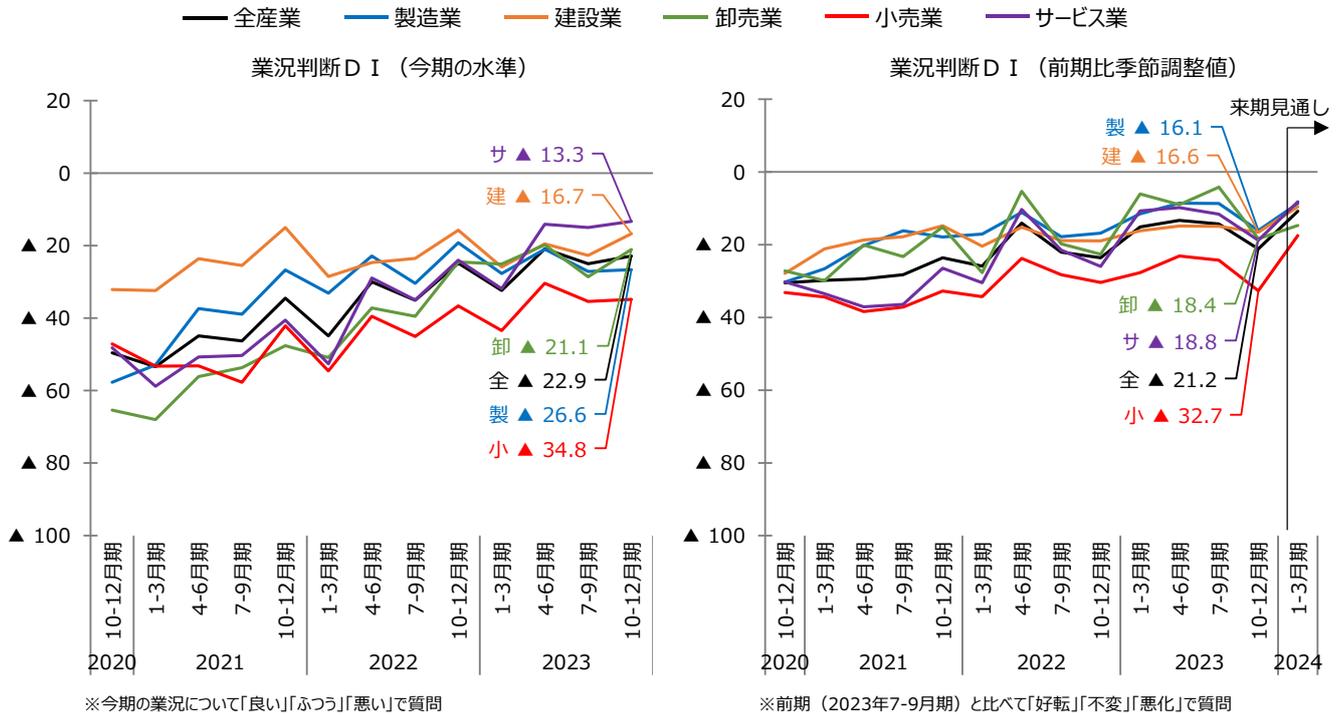
項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。

# 第174回 中小企業景況調査（2023年10-12月期） 中部



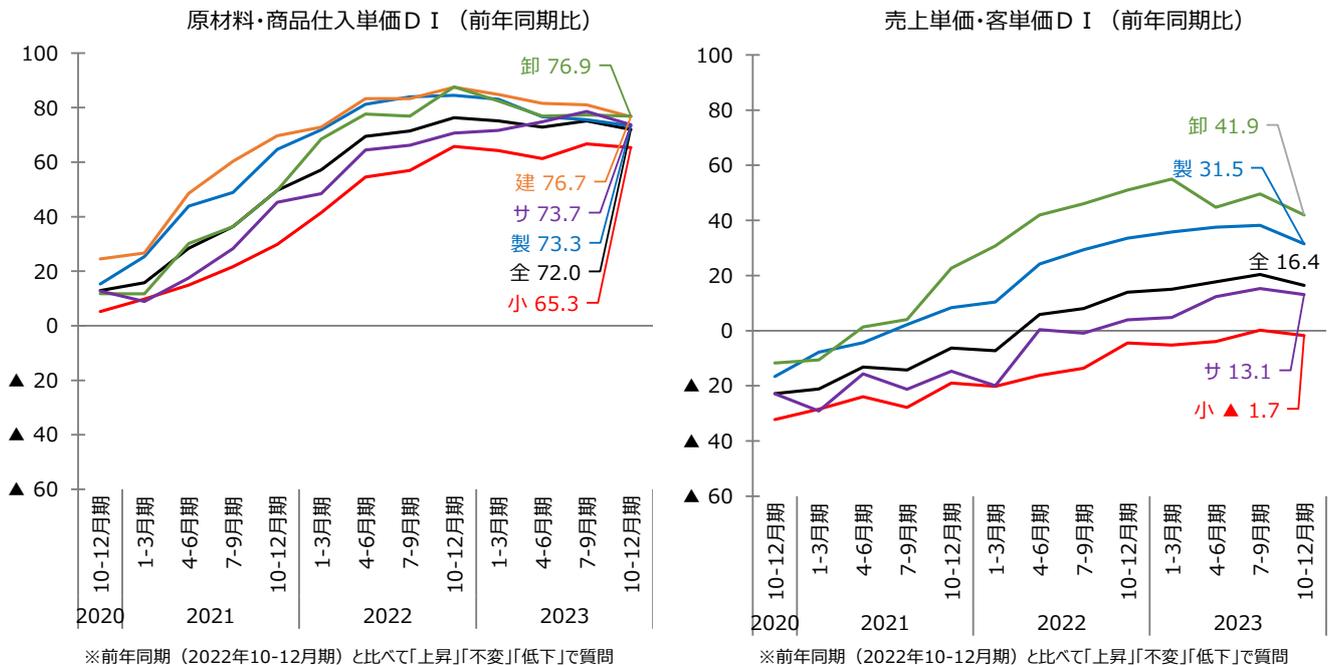
## 1. 業況感

中部地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2023年7-9月期）より2.1ポイント増の▲22.9と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、5産業すべてで上昇した。



## 2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より3.1ポイント減の72.0と2期ぶりに低下した。産業別にみると、5産業すべてで低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より4.0ポイント減の16.4と7期ぶりに低下した。産業別にみると、4産業すべてで低下した。



＜調査概要＞ 調査時点は2023年11月15日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,833 有効回答企業数：17,952 有効回答率：95.3% うち、中部：2,301企業

※本資料の集計対象の都道府県は、富山県、石川県、岐阜県、愛知県、三重県です。

# 第174回 中小企業景況調査（2023年10-12月期） 中部

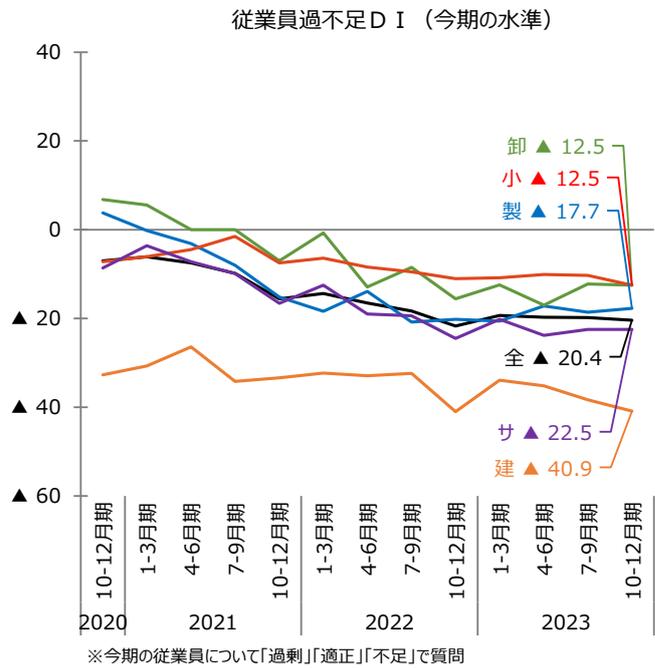
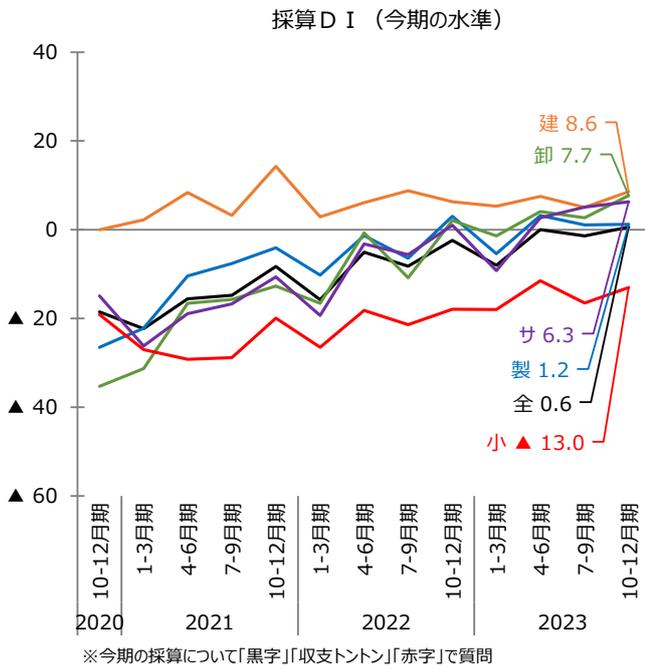


## 3. 採算

採算DIは、全産業で前期より2.0ポイント増の0.6と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、5産業すべてで上昇した。

## 4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より0.6ポイント減の▲20.4と3期連続で低下。産業別では、製造業で上昇、サービス業で横ばい、建設業、小売業、卸売業で低下した。



## 4. 中部の中小企業の声

	業況判断の背景	業種
現状	電気料金の値上げによる、コストアップが利益を圧迫している。人材不足も深刻。	製造業 その他の織物業
	受注はあるが、原材料及び原油等エネルギーの品不足や、価格高騰、資材価格の高騰により、なかなか採算につながらない。価格転嫁の理解を得るのが難しい。	建設業 左官工事業
	温暖化の影響で、冬物素材が苦戦した。今後もコストは、エネルギーから素材、物流費など、上昇すると思われるので、対策をしっかりと立てて遂行しないと、黒字体質を確保できない。	卸売業 織物卸売業 (室内装飾織 雑品を除く)
	人件費、材料費の増加分を、価格に転嫁しきれておらず、粗利が増えない。全てを転嫁したらいいのだが、正直、高値になり過ぎてしまうので怖い。高付加価値の商品サービスを創り出すことが、喫緊の課題だと感じています。	小売業 菓子小売業 (製造小売)
	コロナ禍の状況は、脱したものの、来客の人数は、伸び悩む。材料費や、人件費以外の経費の増加を、売上に転嫁できず、利益が上がらない。従業員の確保難と、高齢化への対応が難しくなっている。	サービス業 料亭
見通し	機械化が難しいと思われる、加工の人手不足（熟練工）が深刻で、需要に対して、供給が全く追いついていない状況が続いています。この人手不足は、さらに進むと思われ、生産縮小を段階的に進める必要があると考えています。	製造業 利器工器具・手道具 製造業（やすり、のこぎり、食卓用刃物を除く）
	公共工事の減少は、相変わらず。しかし、民間企業の景気上昇により、設備投資が増え、工事が徐々に増える傾向にあるのは、明るい。	建設業 一般土木建築 工事業
	諸物価高騰から、個人消費が伸び悩んでいる。海外の不安定要因が、国内経済へ悪影響を与えている。特に、個人消費が生活防衛の色彩を見せており、秋冬の需要期に対して、大きく悪化傾向にある。	卸売業 陶磁器・ガラス 器卸売業
	コロナも落ち着き、人の動きも見られるようになり、人を集めてのイベントも増えることから、売上の増加が見込まれます。	小売業 菓子小売業 (製造小売)
	来春の新幹線開業に向け、情報発信量の増加、ムード上昇、高付加価値化事業による、施設の魅力化等進行中。人数ベースでは、なかなかコロナ禍前に戻る状況に、なっていない。	サービス業 旅館、ホテル

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

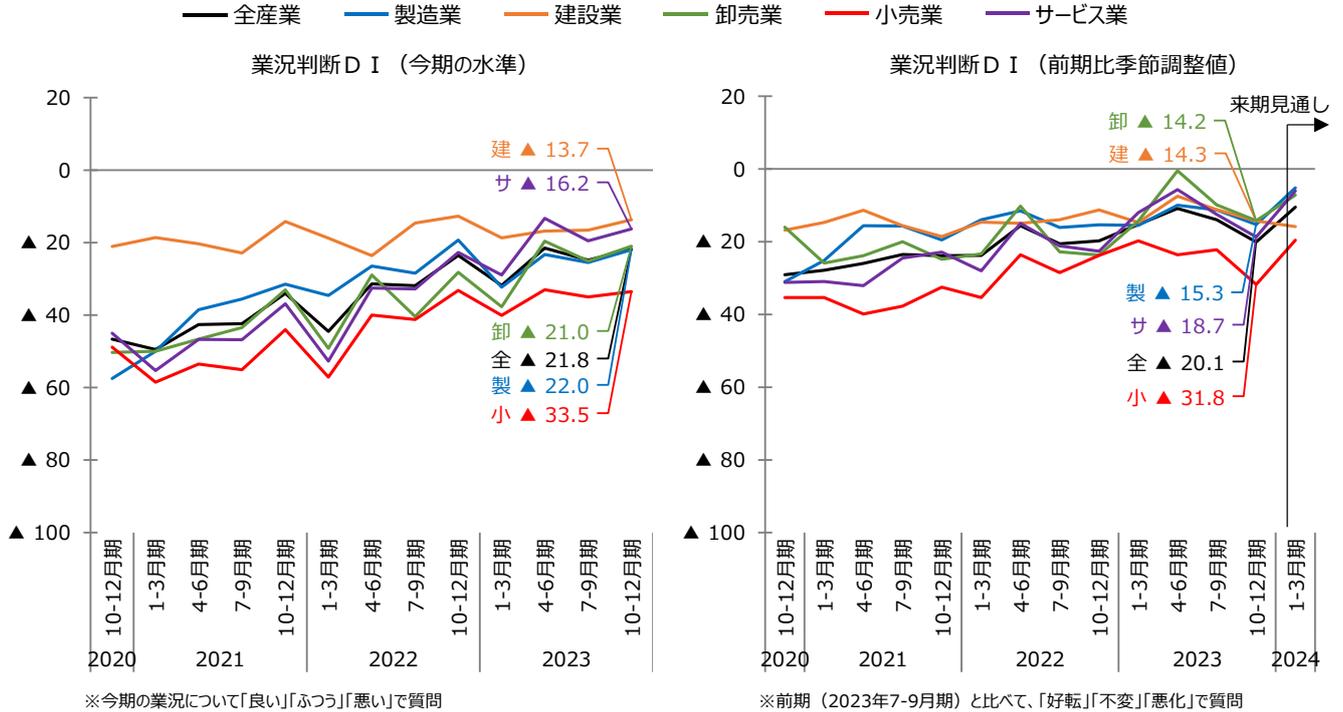
項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。

# 第174回 中小企業景況調査（2023年10-12月期） 近畿



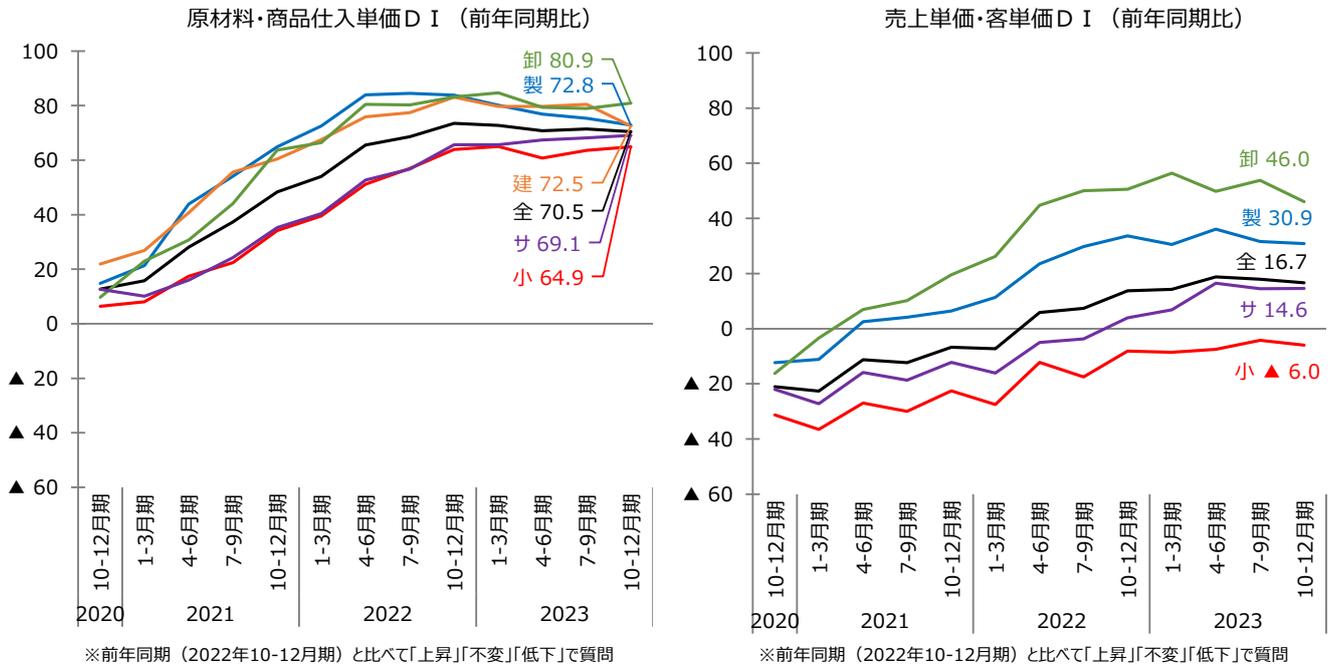
## 1. 業況感

近畿地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2023年7-9月期）より3.0ポイント増の▲21.8と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、5産業すべてで上昇した。



## 2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より0.9ポイント減の70.5と2期ぶりに低下した。産業別にみると、卸売業、小売業、サービス業で上昇し、建設業、製造業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より1.3ポイント減の16.7と2期連続して低下した。産業別にみると、サービス業で上昇し、卸売業、小売業、製造業で低下した。



<調査概要> 調査時点は2023年11月15日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,833 有効回答企業数：17,952 有効回答率：95.3% うち、近畿：2,521企業

※本資料の集計対象の都道府県は、福井県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県です。

# 第174回 中小企業景況調査（2023年10-12月期） 近畿



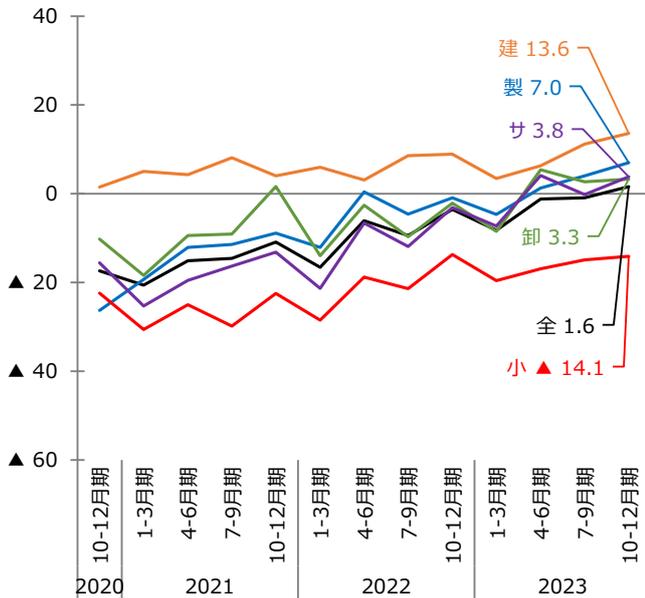
## 3. 採算

採算DIは、全産業で前期より2.5ポイント増の1.6と3期連続して上昇した。産業別にみると5産業すべてで上昇した。

## 4. 従業員過不足

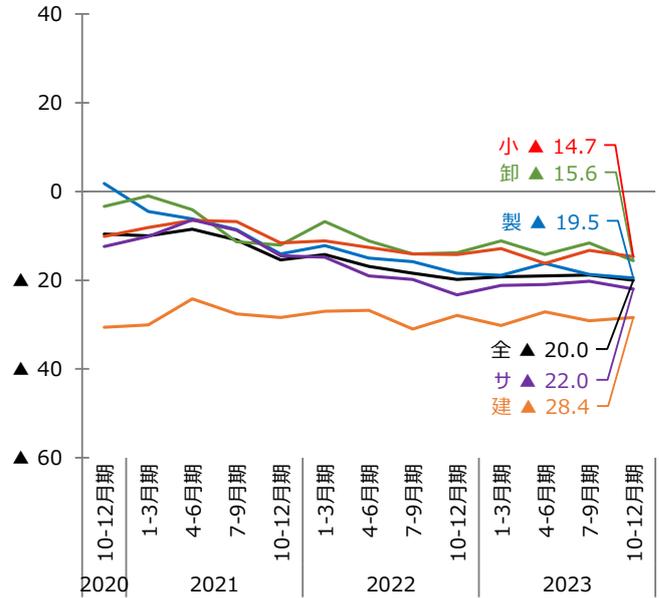
従業員過不足DIは、全産業で前期より1.2ポイント減の▲20.0と4期ぶりに低下した。産業別にみると、建設業で上昇し、卸売業、サービス業、小売業、製造業で低下した。

採算DI（今期の水準）



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問

従業員過不足DI（今期の水準）



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

## 4. 近畿の中小企業の声

	業況判断の背景	業種
現状	不安定な国際情勢、エネルギーや、原材料高、円安を背景とした、物価の高騰などで、建築業界も影響を受け続けて、建築費も上昇、人手不足もあって、建築現場は、遅延しているところもある。	製造業 その他の金物類製造業
	若手従業員の確保が困難なと、責任者の雇用ができないのが、問題となってきている。	建設業 一般土木建築工事業
	為替の安定感が無く、全般的に、円安傾向が続く中、資材等の値上がりも見込まれている。輸入商品が9割を占める弊社としては、仕入単価上昇、販売価格への転嫁が大きな課題となっている。	卸売業 その他の産業機械器具卸売業
	商品仕入単価が上昇しているが、他店との競争などもあり、すぐには販売価格には転換がしづらい。	小売業 電気機械器具小売業（中古品を除く）
	中小企業から、コロナ以降の業務改善の相談が数多く寄せられていますが、熟練技術者の確保が難しく、対応しきれない状況です。適格請求書・インボイス対応にも、時間を取られましたが、収益には、つながりづかったです。	サービス業 受託開発ソフトウェア業
見通し	自動車産業は、電動化の流れが加速しており、今後の受注が不安定な状況で、先行き不透明感が払拭できない。今後の景気、経済活動も、物価高騰、原油価格上昇もあり、回復度は、見通せない状況にある。	製造業 はかり製造業
	引合いは、設計、施工共に、お断りしている状況であり、コロナ前の状態に戻った。材料費上昇は、大きく長期化している課題であり、その対応と、来年4月に、大幅なベースアップ予定のため、一層の利益確保のための努力が必要。	建設業 建築工事業（木造建築工事業を除く）
	価格転嫁が浸透し、現状は、業況に問題無いが、今後は、人件費など、経費の更なる増加や、金利の上昇が、懸念材料である。また、地政学リスクが高まっており、中国を始めとする、海外の景気停滞が、国内に波及しないか注視している。	卸売業 電気機械器具卸売業（家庭用電気機械器具を除く）
	資材高騰に加え、消費者の意識としては、買い控えのムードがあり、経営状況は、厳しいと感じております。将来を見据えての従業員確保や、投資等も考えたいのですが、二の足を踏んでいるような状況です。	小売業 電気機械器具小売業（中古品を除く）
	燃料の高騰に始まる、原料高の影響に加え、国内経済の停滞を強く感じている。この状況が、収支に悪い影響を与えるのは当然で、2024年問題による、労働力確保の難しさもあり、運送業は、当面厳しい状況にあると考えている。	サービス業 一般貨物自動車運送業（特別積合せ貨物運送業を除く）

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

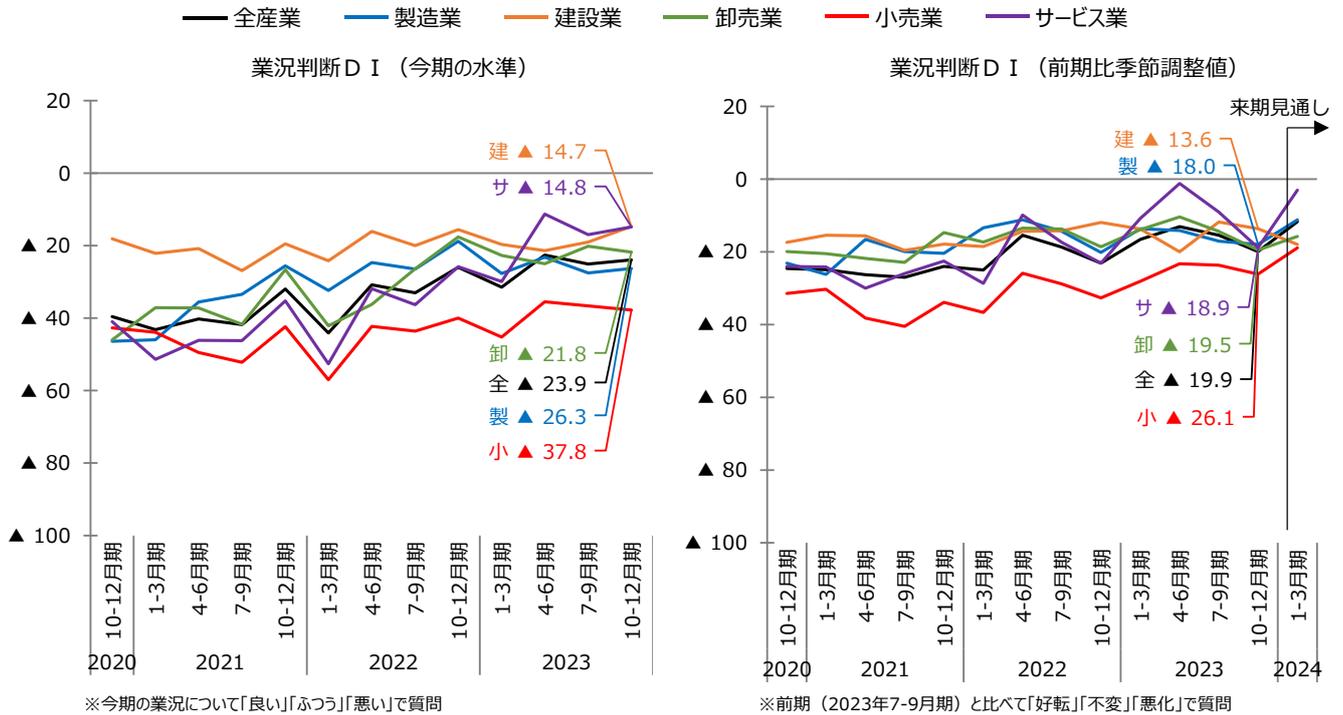
項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。

# 第174回 中小企業景況調査（2023年10-12月期） 中国



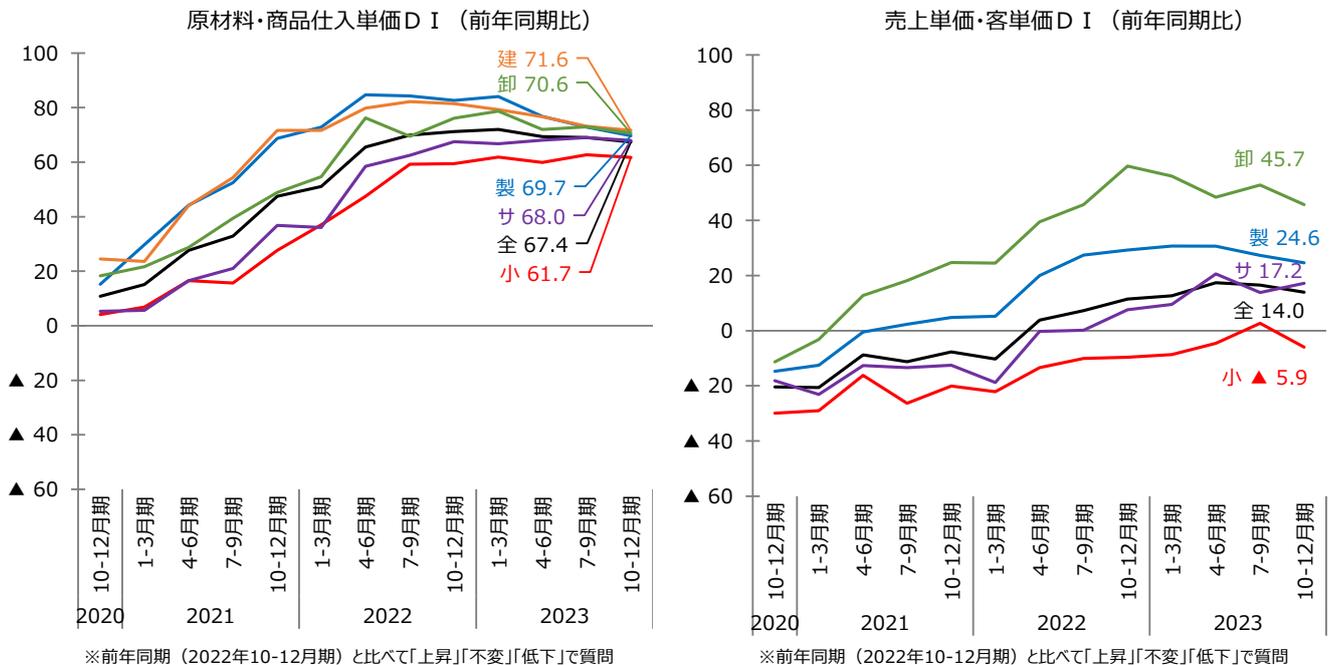
## 1. 業況感

中国地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2023年7-9月期）より1.2ポイント増の▲23.9と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、建設業、サービス業、製造業で上昇し、卸売業、小売業で低下した。



## 2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より1.6ポイント減の67.4と3期連続して低下した。産業別にみると、5産業すべてで低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より2.6ポイント減の14.0と2期連続して低下した。産業別にみると、サービス業で上昇し、小売業、卸売業、製造業で低下した。



<調査概要> 調査時点は2023年11月15日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,833 有効回答企業数：17,952 有効回答率：95.3% うち、中国：1,680企業

※本資料の集計対象の都道府県は、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県です。

# 第174回 中小企業景況調査（2023年10-12月期） 中国

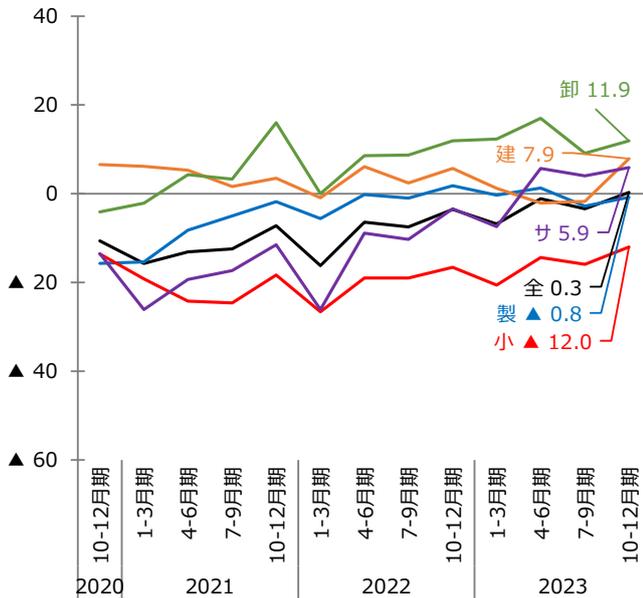
## 3. 採算

採算DIは、全産業で前期より3.7ポイント増の0.3と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、5産業すべてで上昇した。

## 4. 従業員過不足

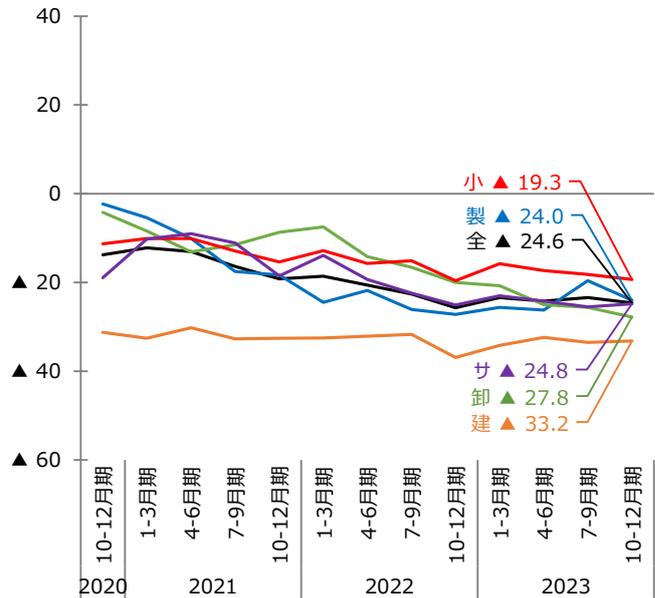
従業員過不足DIは、全産業で前期より1.2ポイント減の▲24.6と2期ぶりに低下した。産業別にみると、サービス業、建設業で上昇し、製造業、卸売業、小売業で低下した。

採算DI（今期の水準）



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問

従業員過不足DI（今期の水準）



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

## 4. 中国の中小企業の声

	業況判断の背景	業種
現状	想定以上の円安で、材料仕入価格が高騰し、利益確保に苦慮している。	製造業 配線器具・配線附属品製造業
	官公需要の増加のため、従業員の確保が必要だが、難しい状況であるとともに、従業員の高齢化も進み、今後の課題となっている。	建設業 一般土木建築工事業
	残暑が続いているため、全体的な消費は、非常に悪く、上向きを感じられない。インボイス制度がスタートし、事務負担も増加しているため、厳しい状況が続くと思われる。	卸売業 婦人・子供服卸売業
	気温の高い日が続き、冬物衣料の動きが悪い。また、人件費が高騰、仕入価格、光熱費も上昇しているが、なかなか価格への転嫁が行いにくい。	小売業 婦人服小売業
	デフレ下で進んだ、低価格化の流れが終わり、値上げする企業が増えてきた。大手のブランド力があれば、値上げしやすいが、中小企業では、なかなか踏み切れない現状があり、時期や、やり方について考え始めている。	サービス業 学習塾
見通し	世界的な半導体市場の縮小に、底打ち感が見られる状況で、緩やかな業績回復の見込みとされているが、今後の動向に注視が必要。	製造業 プラスチック板・棒製造業
	木材等の材料価格の高騰、下請け業者の単価の上昇に伴い、段々と業況が悪くなってきている。今後、人材不足により、下請け業者の単価が上がる可能性があり、ますます状況が悪くなるかもしれない。	建設業 建築工事業(木造建築工事業を除く)
	昨年に引き続き、物不足、在庫減少に加え、仕入価格の高騰があり、受注数が減っている。また、活動制限が無くなったことによる、経費増加も予測される。	卸売業 電気機械器具卸売業(家庭用電気機械器具を除く)
	売上においては、順調に上がってきているが、それと同時に、仕入や、経費も上がってきている。全てを価格に転嫁できないので、利益を圧迫してしまう。今後、利益率を意識した、新商品開発が必要である。	小売業 菓子小売業(製造小売)
	コロナ禍も明け、売上金額及び来店客数ともに、大幅な増加がみられた。財務状況は改善し、収益性も向上しているが、反面、水道光熱費や、最低賃金の上昇、及びインボイス制度の開始による、コストアップも懸念される。	サービス業 他に分類されない娯楽業

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

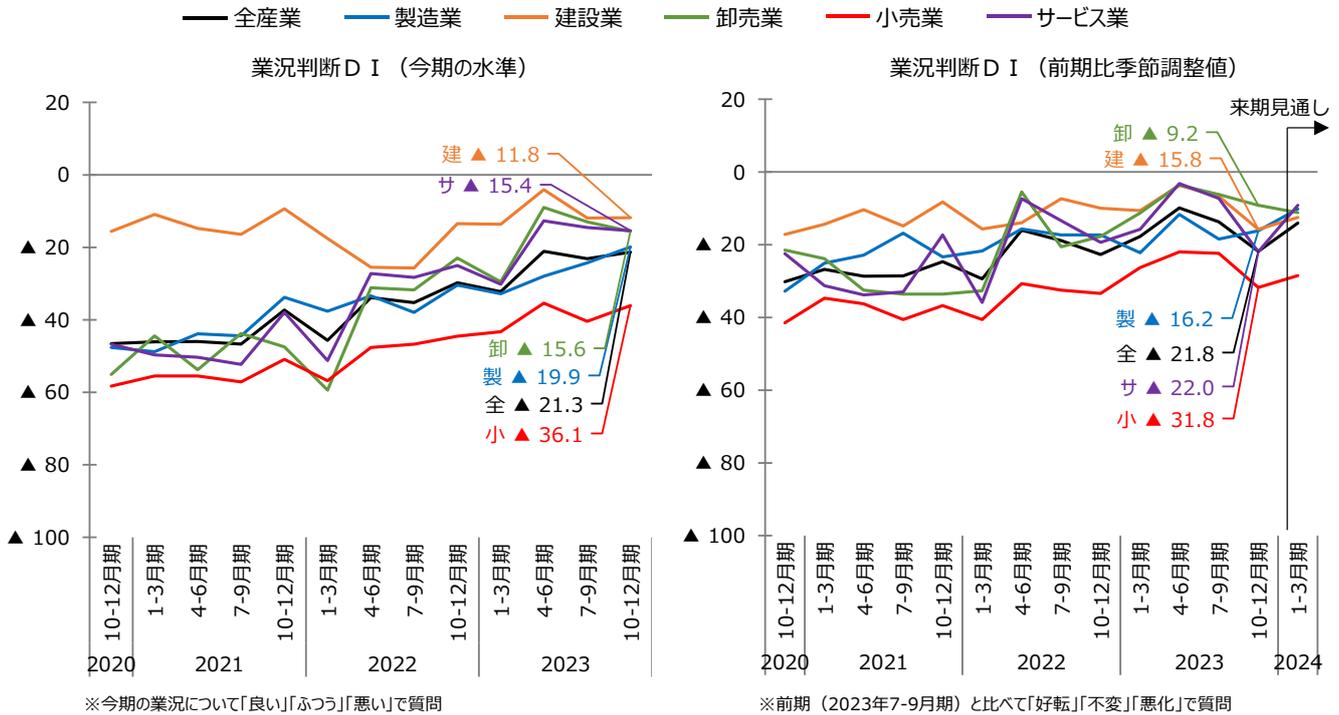
項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。

# 第174回 中小企業景況調査（2023年10-12月期） 四国



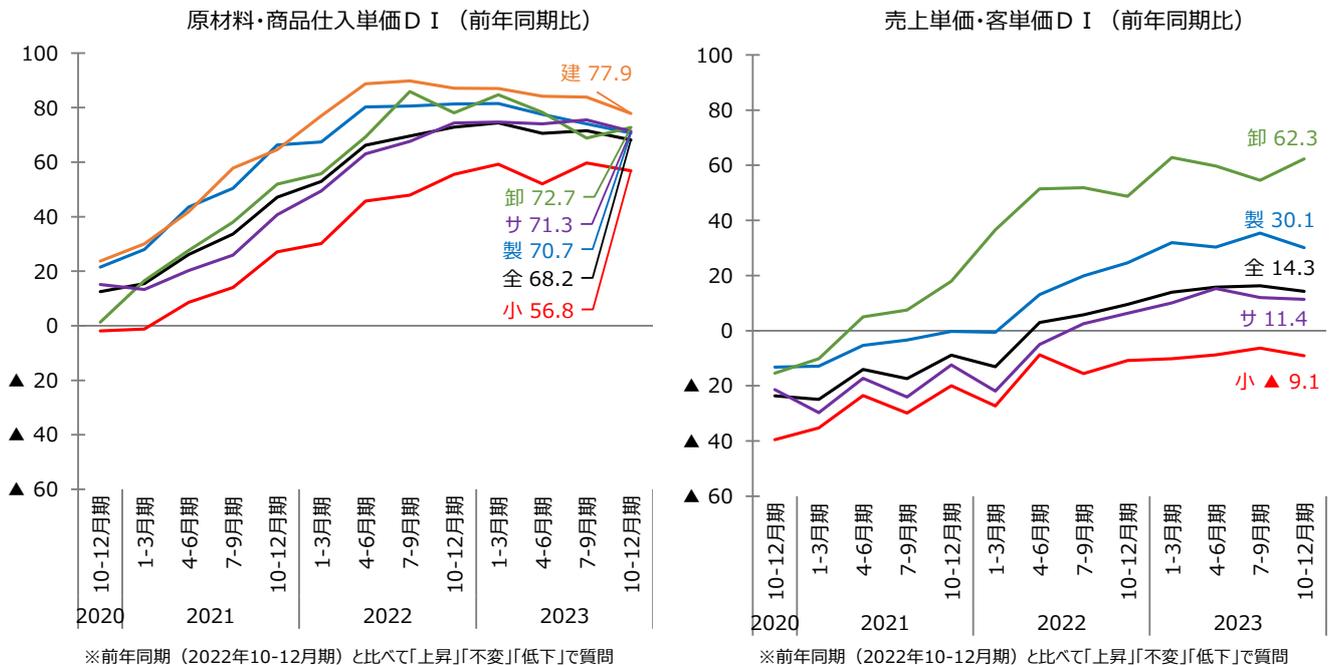
## 1. 業況感

四国地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2023年7-9月期）より1.8ポイント増の▲21.3と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、製造業、小売業、建設業で上昇し、卸売業、サービス業で低下した。



## 2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より3.3ポイント減の68.2と2期ぶりに低下した。産業別にみると、卸売業で上昇し、建設業、サービス業、製造業、小売業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より2.0ポイント減の14.3と7期ぶりに低下した。産業別にみると、卸売業で上昇し、製造業、小売業、サービス業で低下した。



<調査概要> 調査時点は2023年11月15日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,833 有効回答企業数：17,952 有効回答率：95.3% うち、四国：1,271企業

※本資料の集計対象の都道府県は、徳島県、香川県、愛媛県、高知県です。

# 第174回 中小企業景況調査（2023年10-12月期） 四国

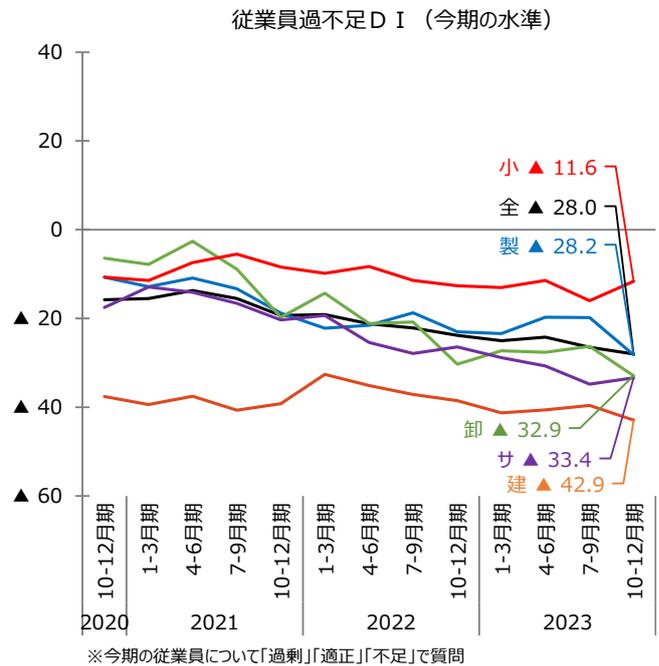
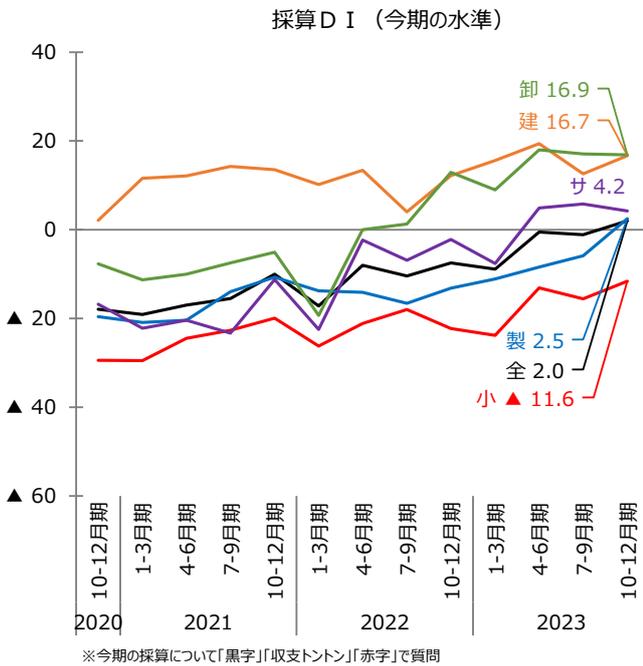


## 3. 採算

採算DIは、全産業で前期より3.1ポイント増の2.0と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、製造業、建設業、小売業で上昇し、サービス業、卸売業で低下した。

## 4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より1.5ポイント減の▲28.0と2期連続して低下した。産業別にみると、小売業、サービス業で上昇、製造業、卸売業、建設業で低下した。



## 4. 四国の中小企業の声

	業況判断の背景	業種
現状	原材料価格及び光熱費・燃料費の高騰に対して、商品単価の値上げが追いついていない。新規労働者の確保も難しく、現場は仕事に追われて、経営戦略を十分に練ることができていない。	製造業 豆腐・油揚げ製造業
	材料価格の上昇は、一段落したが、システムキッチン等の建材価格の上昇は続いている。職人の高齢化により、大工の確保に困ることが多い。	建設業 一般土木建築工事業
	観光や外食の動きは、随分活発になってきたが、物価上昇による、経費増加の影響により、業況が好転するまでに至らない。販売単価は当然上げているが、その影響で取引額が少なくなる得意先も多く、悩ましいところである。	卸売業 その他の食料・飲料卸売業
	物価高騰に伴い、仕入単価や経費も上昇しているが、販売価格に転嫁できない。また、売上自体も増加せず、収益のみ、圧迫を受けている。	小売業 鮮魚小売業
	少子高齢化の影響を受けて、若年層の労働力不足が顕著となってきている。来年の労働時間問題などによる、残業時間の制限に向け、組合等間で話し合いを続けている。派遣・備車等の経費増も、やむを得ない状況となっている。	サービス業 一般貨物自動車運送業（特別積合せ貨物運送業を除く）
見通し	海外輸出向けの商品増産により、2年先まで、稼働率120%予測が示されている。一方で、パート労働者の賃上げによる労働時間の制限や、働き方改革と年取の壁が相反し、労働力不足のため、自社の生産体制が不安定である。	製造業 自動車部品・附属品製造業
	材料価格が上昇しても、請負価格は、それほど上げられる訳ではなく、人件費も上昇しているので、先行きの不安を感じることもあります。	建設業 塗装工事業（道路標示・区画線工事業を除く）
	仕入商品の価格高騰に加え、ガソリン等の価格値上げが、続いている。販売価格への十分な転嫁をしにくい状況である。インボイス導入による経費がかかること、手間も増えるため、厳しい状況は、今後も続くと思われる。	卸売業 医薬品卸売業
	最低賃金の上昇により、人件費が増加。物価高により、仕入単価が増加。しかし、販売単価を上げると、客数減との予測のため、全体的に見て、経営状況は良くない。状況は、悪化すると予測できる。	小売業 菓子小売業（製造小売）
	インボイスが始まり、請求書については、システムを導入し、対応する予定である。また、当社が依頼する下請事業者は、売上が小さく、免税事業者が多いものの、人手不足等を考えると、自社で負担するしかないと考えている。	サービス業 産業廃棄物処分業

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

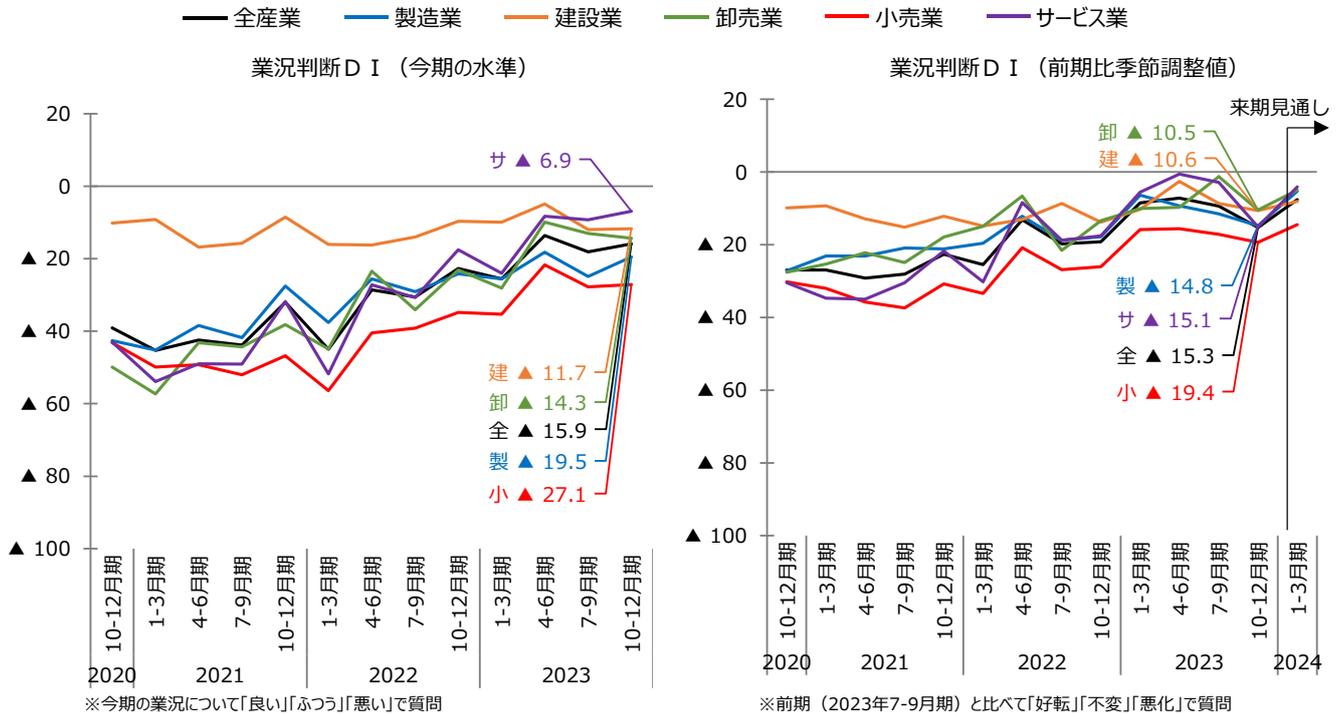
項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。

# 第174回 中小企業景況調査（2023年10-12月期） 九州・沖縄



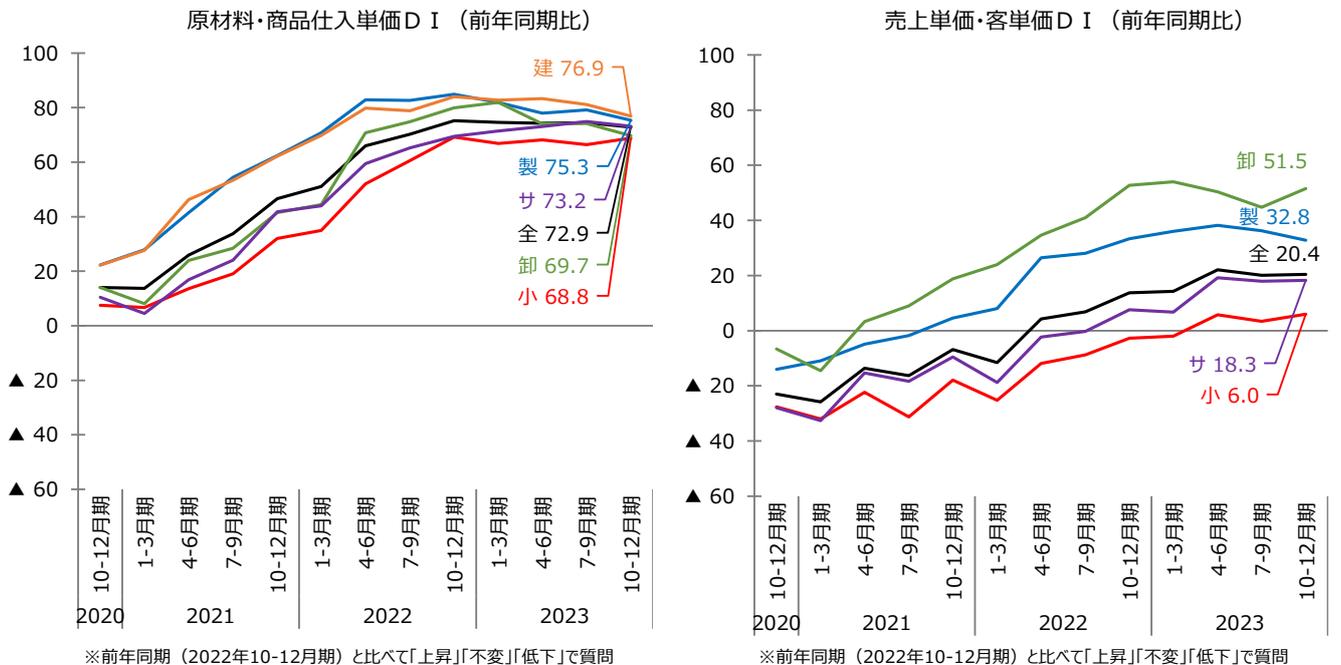
## 1. 業況感

九州・沖縄地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2023年7-9月期）より2.2ポイント増の▲15.9と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、製造業、サービス業、小売業、建設業で上昇し、卸売業で低下した。



## 2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より1.6ポイント減の72.9と2期ぶりに低下した。産業別にみると、小売業で上昇し、卸売業、建設業、製造業、サービス業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より0.3ポイント増の20.4と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、卸売業、小売業、サービス業で上昇し、製造業で低下した。



<調査概要> 調査時点は2023年11月15日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,833 有効回答企業数：17,952 有効回答率：95.3% うち、九州・沖縄：2,724企業

※本資料の集計対象の都道府県は、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県です。

# 第174回 中小企業景況調査（2023年10-12月期） 九州・沖縄

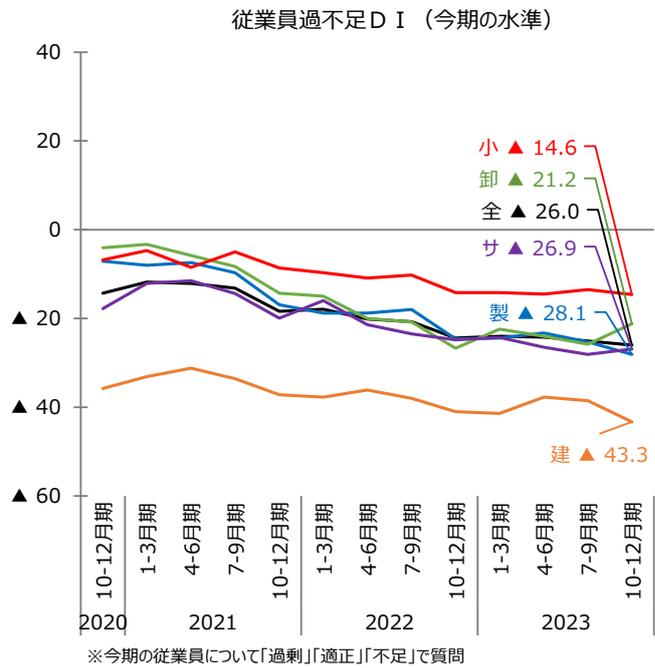
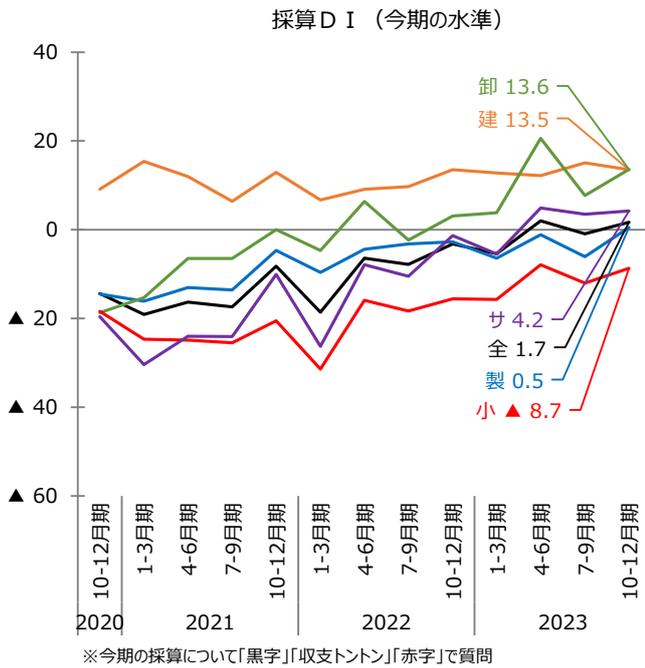


## 3. 採算

採算DIは、全産業で前期より2.6ポイント増の1.7と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、製造業、卸売業、小売業、サービス業で上昇し、建設業で低下した。

## 4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より0.9ポイント減の▲26.0と3期連続して低下した。産業別にみると、卸売業、サービス業で上昇、建設業、製造業、小売業で低下した。



## 4. 九州・沖縄の中小企業の声

	業況判断の背景	業種
現状	需要に対して、供給不足になる状態が続くと感じている。設備・人材ともに、投資に値する好機と見ているが、現実には、様々な問題があり、悩むところである。	製造業 各種機械・同部品製造修理業（注文製造・修理）
	人手不足解消のため、在職者賃金引上げ、休暇取得促進、所定労働時間削減等に取り組んできたが、材料価格や下請け単価の上昇、入札競争の激化の受注難で、経営環境は悪化している。どこまで改善を継続できるか、不透明だ。	建設業 一般土木建築工事業
	売上については、全体的に回復傾向にあるが、販売単価の上昇及び転嫁難、タイムラグがあり、売買差益の確保が大きな課題である。また、米穀については、県産米の安定供給に対する仕入の確保が、今期の重要な課題となる。	卸売業 米麦卸売業
	催事なども、制限無し通常開催に切り替わっており、イベントでの収益も、安定しつつあるが、価格高騰からか、消費者の購買意欲が、まだ弱い傾向にある印象。	小売業 各種食品小売業
	コロナも終息して、初めての繁忙期であり、来店客は増加していると感じている。材料費等の仕入単価が上昇しているが、価格に転嫁できていないため、利益の確保が難しい状況となっている。	サービス業 他に分類されない宿泊業
見通し	コロナ関連の融資の返済が始まるが、負担が大きいため、今後、売上を伸ばしていきたい。	製造業 その他の水産食品製造業
	外注先（大工）の確保が、変わらず課題。資材価格の上昇は、まだ続いているが、ガソリン価格は、落ち着いた。利益は確保できているが、将来的なインボイスに対する不安感が残っている。	建設業 木造建築工事業
	観光客も増えてきているため、前期と比較して、売上は増加傾向にある。また、相次ぐ商品の値上げに伴い、販売単価も上昇しているため、売上が好転している。	卸売業 米麦卸売業
	毎年、売上、収益ともに、増加している。人員も、不足していたことから、パートタイマーを採用し、販売・製造の強化を図っている。気がかりなのは、原材料の高騰。転嫁対策が課題となるように感じている。	小売業 菓子小売業（製造小売）
	運賃交渉を進めており、売上は、若干伸びているが、原材料や、燃料単価の高止まりは、先行きが不透明である。慢性的な人手不足と、高齢化により、年々、生産力は低下し、5年後、10年後の展望に不安がある。	サービス業 一般貨物自動車運送業（特別積合せ貨物運送業を除く）

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。